

(当テキストは決算説明会における説明を元に投資家の皆様の利便性を考慮して、要約としてまとめたものです。当日の説明を一言一句書きとめたものではありません。ご了承ください。)

P2 「2011年3月期 第3四半期累計(9ヶ月)決算 <概略>」

- ・ 営業利益では43%の増益、当期純利益では41%の増益を達成。ソリューション販売増加による粗利率改善と、構造改革による経費削減などにより営業利益率が改善したことが貢献しました。
- ・ 主力のカラーMFPを中心とした新製品を投入いたしました。主には第4四半期から業績貢献する見通しです。
- ・ プロダクションプリンティング、ソリューション事業などの新規事業は順調に2桁成長を継続しています。
- ・ 当期純利益の増加に加えて、運転資金のコントロール、投資案件精査などの継続により101億円のフリーキャッシュフローを創出しました。
- ・ 2011年3月期通期見通しを維持。新製品の拡販、新規事業の成長加速、構造改革活動の継続などによって達成を目指します。
- ・ 配当金は、2011年3月期年間配当金33円の見通しを継続いたします。

P3 「2011年3月期 第3四半期累計 業績」

- ・ 売上高は1兆4,390億円と、全体としては2.4%の減収でした。これには、ユーロで約20円、ドルで約7円の円高による為替影響が含まれており、現地通貨ベースでは3.3%の増収となりました。
- ・ 為替影響を中心とした売上高の減少により、売上総利益は1.5%の減益となりましたが、カラーMFP、プロダクションプリンティング製品など利益率の高い製品の販売増加により、売上総利益率は改善しています。
- ・ 販管費は、構造改革と、円高による目減り分により、対前年では251億円ほどの減少となり、販管費率も37.9%と改善しました。この結果、営業利益は539億と43.1%の増益となりました。

P4 「2011年3月期 第3四半期累計 営業利益:前年同期比増減分析」

- ・ 販売増&利益率改善で456億円の利益増。これは、利益率の高いカラーMFPやプロダクションプリンティング製品、MDS、ITサービスなどの販売増が貢献しています。
- ・ 製品原価低減で47億円の利益増。第4四半期は新製品効果で上積みできると考えています。
- ・ 研究開発費低減で4億円の利益増。新製品を多数発売しましたが、研究開発の効率化に取り組み開発費を圧縮いたしました。

- ・ その他の経費増加による利益減は29億円。広告宣伝、販売活動の強化、新規事業の体制強化などにより経費増となりました。
- ・ 為替影響により316億円の減益となりました。

P5 「【参考】2011年3月期 第3四半期業績 補足」

- ・ 営業利益率は、08年度第4四半期を底に、改善を続けています。
- ・ 売上総利益率は、季節性などの影響で上下しておりますが、2008年度第4四半期を底に改善を続けています。
- ・ 販管費率は、2008年度第4四半期をピークに、徐々に低下傾向にあります。
- ・ 研究開発費は、270－280億円くらいの規模で推移しています。

P6 「2011年3月期 第3四半期累計 分野別売上高」

(製品別売上高)

- ・ 画像&ソリューション分野は、3.2%の減収となりましたが、現地通貨ベースでは3.1%増収となりました。特に、ネットワークシステムソリューションは為替込みでも9.7%、現地通貨ベースでは約14%の増収と、狙い通りに拡大してきています。
- ・ 産業分野は、増収となりました。

(地域別売上高)

- ・ 日本は、3.7%の増収、海外は現地通貨ベースでは3%の増収となりました。
- ・ 米州はほとんど伸びておりませんが、これまで様々な構造改革を実施してきていよいよ反転攻勢の時期に入ってきており、今後期待しています。
- ・ 欧州は、現地通貨ベースで3.8%の増収ではありますが、構造改革も進展しており、今後は更に伸ばしていきたいと考えています。
- ・ その他地域は、現地通貨ベースで11%増収となっておりますが、まだまだ伸ばしていけると感じています。今後更に力を入れてきていきたいと考えています。

P7 「2011年3月期 第3四半期累計 連結セグメント情報:事業別(1):画像&ソリューション分野」

- ・ 画像&ソリューション分野は、現地通貨ベースで3.1%の増収。特にネットワークシステムソリューションで13.9%増収となりました。
- ・ MFP&プリンター合計で、ハードが5%増収となりました。ノンハードもようやく上向きになってきました。
- ・ 営業利益は、着実に改善を続けています。

P8 「【参考】画像&ソリューション分野 補足」

(MFP&プリンター合計 前年同期伸び率)

- ・ ハードウェアは2010年度に入り、プラスに転じてきてます。ノンハードウェアもこれを追い掛けるように回復してきています。

(画像&ソリューション売上高 製品別構成比)

- ・ プロダクションプリンティングを含むプリンタ、MDS&ITサービスを伸ばすことがリコーの戦略です。この2つのセグメントは堅調に成長を続けており、戦略展開は順調に進んでいます。

P9 「【参考】2011年3月期 主な新製品・サービス (画像&ソリューション分野)」

- ・ 「NEW」という表示は11月から1月までに発売・発表した新製品で、第4四半期業績への貢献を期待しています。
- ・ 日本において、マイクロソフトとクラウド分野で提携しました。
- ・ MDSに関して事業戦略説明会を行い、売上高を3年後に3,000億円に拡大していく方針を表明しました。

P10 「2011年3月期 第3四半期累計 連結セグメント情報:事業別(2):産業分野」

- ・ 昨年度は10億円の赤字でしたが、今年度は7億円の黒字と、増収増益となりました。

P11 「2011年3月期 第3四半期累計 連結セグメント情報:事業別(3):その他分野」

- ・ 前年から赤字は減少しましたが、第3四半期は広告宣伝費などを含め10億円の赤字を計上しました。来年度に向けて、抜本的な対策を行なっていく計画です。

P12 「2011年3月期 第3四半期累計 連結セグメント情報:所在地別(1):日本、米州」

- ・ 日本は増収増益ですが、第3四半期は減益となっています。第4四半期は増益を目指しています。
- ・ 米州は第3四半期まで赤字が続いています。第4四半期は黒字化を狙っています。

P13 「2011年3月期 第3四半期累計 連結セグメント情報:所在地別(2):欧州、その他」

- ・ 欧州は、ユーロ安もあり減収となっています。組織統合や人員の再配置、システム統合などの成果が見えてきており、営業利益率を改善しています。
- ・ その他地域は、若干の増益となっていますが、第3四半期が低調に推移しました。第4四半期は、新製品効果などで改善すると見ております。来年度以降は、売上高をさらに成長させたいと考えています。

P14 「連結貸借対照表 < 2010年12月末 >」

- ・ 2010年3月末と比べ、総資産が1,929億円減少しました。これは主に有利子負債の返済や、為替変動によるものです。
- ・ 棚卸資産は140億円増加しておりますが、新製品発売当初の在庫作りこみによるものです。

P15 「【参考】連結貸借対照表:主要指標推移」

- ・ 総資産回転率は、若干ですが改善しています。
- ・ 株主資本比率は、負債の返済や社債の償還などにより上昇しています。
- ・ 棚卸資産回転期間は1.96と悪化していますが、新製品投入時の作り込みが主な要因です。第4四半期に新製品を拡販することで改善できる見通しです。

P16 「【連結キャッシュフロー計算書 < 9ヶ月分 >」

- ・ 当期純利益の増加、運転資金のコントロールにより、101億円のフリーキャッシュフローを生み出しています。
- ・ 財務活動によるキャッシュフローは、社債の償還、配当金の支払などにより、926億円の支出となっております。

P18 「2011年3月期 通期 業績見通し」

- ・ 通期の見通しは、据え置きとしています。需要回復はまだ緩やかなものにとどまっていますが、足元の競争では競合に負けておりません。特に利益項目については、新製品効果、さらなる構造改革の推進により、達成を目指して取り組んでおります。

P19 「2011年3月期 通期 営業利益見通し：前年度比増減分析」

以下の項目について前回より変更しております。

- ・ 販売増による総利益増加は597億円(前回見通しでは630億円)
- ・ その他経費増加による利益減は98億円(前回見通しは115億円)
- ・ 為替影響による利益減は378億円(前回見通しは395億円)

P21 「連結財務指標推移（年度別）」

- ・ 一株あたり配当金は33円と変更ありません。
- ・ 配当性向は68.4%と非常に高いですが、利益が巡航速度になった際は、30%を目標にしていきたいと考えています。